

高知市市民活動サポートセンター季刊誌

# えぬびい! Oh!

2021 夏  
Vol. 78

▶ 2～3P

土佐特有の「絵金」文化を未来につなぐ  
～すてきなまち・赤岡プロジェクト～

▶ 4～5P

すべての人たちが安心して地域で生活ができる社会に  
～NPO 団体レインボー高知～

▶ 6P

高系4号（通称護国芋）芋焼酎「神池」の誕生までとこれから  
～農と生きもの研究所～

▶ 7P

「天国からの寄付ぎふと」寄付先団体Part4  
～NPO法人アテラーノ旭～

# 土佐特有の「絵金」文化を未来につなぐ

## 寄稿：すてきなまち・赤岡プロジェクト

香南市赤岡町で、絵金の芝居絵屏風が飾られる町家の保存・活用に取り組み、絵金文化の継承とまちそだて・人育てに取り組む団体、「すてきなまち・赤岡プロジェクト」の活動を、同プロジェクトの北山めぐみさんに寄稿いただきました。

(森岡)

### ■絵金の芝居絵屏風を知っていますか？

みなさん、「絵金」という人をご存知でしょうか。土佐で生まれた幕末の絵師・金蔵のことで、通称・絵金と呼ばれています。絵金の特徴は、当時流行りであった歌舞伎や浄瑠璃の芝居を、二曲一隻（二つ折り）の屏風に描くスタイルにあります。この芝居絵屏風は、もっぱら神社の夏祭りや飾られ、高知県内の約10箇所神社で見ることが出来ます。

中でも、香南市赤岡町には23点の屏風が現存し、町家の軒下に飾るといふ他に例を見ない独特の展示風景を見ることが出来ます。こうした町の特徴から、赤岡町では30年近くにわたり、絵金を核としたまちづくりに取り組んできました。

### ■町家を未来につなぐ

赤岡の芝居絵屏風は、町家の軒下に飾られることが特徴ですが、まちの人口減少や建物の老朽化により、徐々に町家が解体され、お祭りの風景が変わりつつあるのが現状です。

こうした中で、平成23年の冬、町のシンボルである町家がまた1軒姿を消そうとしていました。それが、初代赤岡村長の邸宅・赤れんが商家です。すでに解体が進められていましたが、町の人たち

と市の職員が所有者さんをお願いし、なんとか解体を踏みとどまっていたきました。

しかし、老朽化が著しく、空き家となり使えない状態でした。そこで、平成26年から国立高知工業高等専門学校（以下「高専」）で建築を学ぶ学生たちと、建築の専門家である（公社）高知県建築士会の若手メンバーが中心となり、「すてきなまち・赤岡プロジェクト」（平成26年12月設立 浜田義隆代表理事）を立ち上げ、赤れんが商家の保存・再生に取り掛かることになりました。

### ■ワークショップで伝統木造建築に触れる

建物の傷んでいるところを高専生や地域の人々と一緒に直すワークショップを、月に1回程度のペースで行っています。畳の張り替え、根太の交換、改築箇所の解体、かまどの復元、庭の整備、門・釜屋の改修、襖の張り替えなど、できるところから徐々に進めてきました。ワークショップでは、工事をお願いする大工さんをはじめ、左官、表具、板金、小舞、瓦など、土佐の伝統構法を引き継ぐ職人の方々に講師と理解する貴重な場となっています。また、ワークショップの日のお昼ご飯には、レンガのかまどで炊いたかまどご飯をみんなで囲むことも楽しみの一つです。



▲町家の軒下に飾られる芝居絵屏風



▲絵金祭りの日の赤れんが商家（高知県香南市赤岡町773）





▲襖の張り替えワークショップ ふすまなび 襖学



▲お昼の楽しみはかまどで炊くご飯!



▲赤岡中学校との古民家おそうじボランティア



▲月に1度のパンケーキ&和裁カフェ

## ■古民家お掃除ボランティア

平成29年から、赤岡中学校の全校生徒の皆さんと、赤岡町の町家にお伺いし、土間や窓ガラスをきれいにしておそうじボランティアを実施しています。徐々に協力してくださるお宅が増え、町家が持つ歴史的価値に触れながら街の方々とのコミュニケーションを図る機会になっています。町家を守り続けてもらいたいという思いで取り組んでいます。

## ■地域交流拠点として

町のシンボルである赤れんが商家には、誰でも利用できる、立ち寄りやすい空間であってほしいと考えています。そこで月に1回、パンケーキ

を楽しみながら香南市の和裁士さんの和裁風景をみていただける「パンケーキ&和裁カフェ」を開催しています。また、講演会やセミナーなども不定期で開催しています。

## ■23点の屏風を飾る23軒の町家を未来へ

現在の課題として、赤れんが商家の大屋根の老朽化が著しく、修繕が必要な状況となっています。また、他の町家の滅失が進んでおり、面的な取り組みへと展開させる必要があると考えています。今年度は、クラウドファンディングにも挑戦する予定ですので、応援よろしくお願いたします!

すてきなまち・赤岡プロジェクトの活動は、ホームページ・Facebook・YouTubeでご覧いただけます。ワークショップや活動の参加も募集しております。

※コロナウイルス感染状況により変更しますので詳しくはお問い合わせください。



連絡先: akaokaakarenga@gmail.com  
080-1432-4947 (北山)

▲ホームページ QR コード

# すべての人たちが安心して地域で生活ができる社会に

## 寄稿：NPO 団体レインボー高知の取り組み

高知市では、令和2年11月に「高知市にじいろのまち宣言」が行われ、同3年2月から「高知市パートナーシップ登録制度」が始まりましたが、LGBTQ\*<sup>1</sup>の方々が置かれている状況について、まだまだ詳しい内容を知らない方も多いと思います、レインボー高知の代表宮田真さんに依頼し、寄稿していただきました。

(森岡)

### ■はじめに

私たちの団体は、高知市で性的マイノリティへの差別や偏見、社会的な孤立をなくすために、性的マイノリティの人とアライ（理解者・賛同者）が連携し、すべての人たちが安心して地域で生活ができる社会の実現に寄与することを目的として平成31年1月1日に発足しました。性的マイノリティ当事者とアライで、身体の性、心の性、好きになる性、表出する性、同性パートナーへなどの正しい知識を広め、理解者を増やし、性的マイノリティへの偏見や差別を無くしていくため、高知県内を中心に次のような活動を行っています。

### 《活動内容》

- 高知市にパートナーシップ制度の創立に向けた署名・市議会議員と意見交換等
- じんけんふれあいフェスタ出展
- レインボー映画祭
- 人権ふれあい支援事業の助成金を受けた事業
- 中高校生・専門学校生への講演・学習会
- 性的マイノリティに関する相談窓口の設置 など

### ■性的マイノリティの現状

パートナーシップ制度の創立に向けた署名活動を行っている際に、「LGBTの言葉を聞いたことがない」「性的マイノリティの人はそばにいない」などの声を、たくさん耳にしました。人口の約3〜10%が性的マイノリティ（電通ダイバーシティ・ラボ、名古屋市、LGBT総合研究所等の調査による）だと言われている中で、高知県では、性的マイノリティへの認知度がまだまだ低いのではないかと思います。

LGBTs当事者が職場等でカミングアウトをしていない割合が7〜8割という状況（厚労省の昨年度の調査による）で、教育現場・企業・医療現場など、性的マイノリティの人にとって日常で困難な場面は色々あります。

### ■これからの課題や将来への展望

これまでは、性的マイノリティの総称をLGBT（レスビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー）と扱われてきました。

しかし近年は、同性愛・両性愛・トランスジェンダーでは表せない当事者の自己表現が増えています。ですから私たちはそれ以外も表す複数形のLGBTsを使用します。

性的マイノリティ当事者を理解しない人は、

性的指向と性的嗜好の違い<sup>2</sup>が分からず、自らの意志で同性愛者になり、トランスジェンダーになると思っています。しばしば自己表現によって勘違いされるのですが、殆どの当事者は、成長のある時点で気づき、世間一般的な普通感との違いに深く悩み続けることになるのです。

ある子どもは死にたいと思うほど悩み、自傷や自殺未遂を起こすことや、他人からアウトティング（第三者に本人の意志に反してセクシュアリティを広められること）やハラズメントに遭い、自殺してしまう例も少なくないのです。

親から認めてもらうこともなく、自己肯定感が低いまま大人になります。

性的指向・性自認の英語の頭文字をとってSOGI（ソジ）<sup>3</sup>という概念があります。これは、誰にでも好きになる性や、自分を男と思うか、女と思うかに幅があるという考え方です。

一例をあげると、男性で「100%自分は男だと言えるのか」好きになるのが女性であるという感覚には「100%から0%まで無限の個人差がある」という考え方です。中には一生恋心が湧かない人もいます。

コロナ禍で、より子どもが減ると言われていますが、恋愛や結婚に関する会話の際には、LGBTsを意識した言葉選びをお願いします。

高知市パートナーシップ登録制度により、令和3年4月末時点で6組の登録があり、潜在需要を確認することが出来ました。



▲街頭署名活動を行う宮田さん

**【用語説明】**

\*1: **LGBTQ**

- **L レズビアン** (同性を好きになる女性)
- **G ゲイ** (同性を好きになる男性)
- **B バイセクシユアル** (性別に関わらず同性を好きになる人愛者)
- **T トランスジェンダー** (心と体の性が異なる人) に、
- **Q クエスチョニング** (自らの性のあり方について特定の枠に属さない人、あるいは分からない人) を加えている。

\*2: 性的指向と性的嗜好の違い

**性的指向**とは「どの性を好きになるか」であり、**性的嗜好**とは、「何に対して性的興奮を覚えるのか」いわゆる「○○フェチ」のこと。

\*3: **SOGI**

**性的指向 (Sexual Orientation)** に性自認 (Gender Identity) の頭文字をとった言葉。すべての人が共通して持っている属性のこと。

NPO団体レインボー高知  
 メール: rainbow\_kochi@yahoo.co.jp



現在コロナ禍の中で対面活動が出来ませんが、メール・LINEやZOOMを使った相談や会議を重ねています。

心の性や性的指向は一見できなくとも、子どもでは自然に表現に表れ、いじめの原因になることも多いです。私たちは高知県内でそんな事例が無くなるよう学校、児童生徒、大人に働きかける活動を続けたいと思います。

そして、性の多様性はジェンダーだけで無く、医学的にも存在することを学んでほしいと願っています。



▲学習会での講演



**【にじいろのまち シンボルマーク】**

高知市の観光地でもあり、市民に親しみのある「はりまや橋」をモチーフにしたデザインで、橋の高欄部分を人に見立て、性の多様性を表すレインボーカラーの橋が人と人をつなぐ架け橋になっている様子をイメージしている。



**高知市にじいろのまち宣言**  
 ～多様な性を認め合うまちへ～

にじいろのまちは、一人ひとりの性のあり方が尊重され、だれもがそれぞれの個性や生き方をお互いに認め合い支え合うまちです。

高知市は、性のあり方に関わるあらゆる差別や偏見をなくし、だれもが自分らしく安心して暮らせる、そんなにじいろのまちをめざすことを、ここに宣言します。

令和2年11月24日

高知市長 **岡崎誠也**





令和3年3月、香美市ものづくり会議物部川ブランド分科会の活動で物部町の伝統野菜、高系芋で限定500本の芋焼酎が作られました。焼酎の原材料となるサツマイモの栽培に携わった「農と生きもの研究所」の谷川徹さんに寄稿していただきました。

(つらひ)

■自家製の楽しみ

ついこの間まで日本のあちこちでは、多種多様な穀類やイモ類、果物を原料とした密造自家用酒がささやかな楽しみみとして醸かもされてきました。高知も例外ではなく、笑い話として昔話などに伝わっています。

■地域資源の発掘

2018年に香美市ものづくり会議調査の一環として、物部地域の在来作物の調査を行いました。限られた時間であり、いくつかの地域のみでしたが、興味深い栽培品種や加工品を見ることができました。

物部町神池を訪れ地元の方と話をしていたところ、ある女性が「ケンカ餅\*1にはコウケイよ。あれがなくてはいかんぞね」と言うと、同席された男性が「そっぴいば昔は焼酎を徳島との県境までいて\*2、物々交換して」とついこの間の昔がたりで盛り上がりました。

■サツマイモに救われた

多種多様な在来作物が消えてゆく要因は、

●地域行事の衰退や伝承の断絶によりそれらを原料とした加工品が作られなくなったこと

●品種名がないこと

なのですが、皆がこのサツマイモを「コウケイ」とはつきりと呼称していたのです。これはなかなか珍しい。もしやーと思ひ詳しくお聞きしたところ、戦中戦後国内で年間10数億トン作られたサツマイモの品種の一つの生き残りである、高系4号(通称護国芋)である可能性が高くなりました。  
\* 遺伝的確認はこれからですが、形状由来等は一致しています。

現在のねっとり系の食味しよくみ中心嗜好ではほとんど作られなくなった品種です。在来作物というにはやや新顔ですが、かつてのスーパーヒーローです。

親は「元氣」「七福しちふく」、昭和初期に沖繩農業試験場の松永技師の手で交配され、昭和13年三重県と高知県の農業試験場で育成されました。食料はもちろん工業原料や戦時中はアルコール燃料としても活用され、まさに護国であったらうと想像されます。

■新たな視点で地域の名産に

そして今多くの方の尽力により、高系4号が新たな地域資源として復活しようとしています。サツマイモはかつてほどの栽培面積もありませんし、人々が争うように食べる好物でもなくなりつつあ

ります。が、この品種がもつ抜群の多収性や少肥料性、耐乾性などは後世に伝えたい遺伝資源とも言えます。

いつの日か地域の休耕田がサツマイモ畑に変わり、猪との戦いを乗り切つて焼酎と交換できるようになればとひそかに願っております。



▲完成した焼酎「神池」

画像提供

株式会社土佐山田ショッピングセンター



▲物部町 神池遠景



▲育苗風景 (神池地域にて)

\*1: ケンカ餅

サツマイモと里芋を蒸し、搗き合わせた餅状のお菓子。地域や家庭で多様な味付けがある。

\*2: いて

土佐弁で「行って」という意味。

農と生きもの研究所 谷川 徹

t-tanigawa@mb.pikara.ne.jp

<https://www.facebook.com/noutoikimono>

<https://noutoikimono.com/>

## 「天国からの寄付ぎふと」寄付先団体 Part4

寄稿：NPO 法人アテラーノ旭 前理事長 <sup>やまなか のりこ</sup> 山中 雅子



▲コロナ禍がはじまったころの学生支援「無料の良心市」

■駆け足の15年  
アテラーノ旭ができて15年になりました。はじめは「まちのお茶の間」から出発しました。「公益信託高知市まちづくりファンド」の助成を受けて、地域の人の居場所が整いました。その後、集いの場に来ることのできない高齢者へお弁当を届ける「配食事業」を始めたり、ご近所の家と土間を借りて「いきいき百歳体操」を行ったり、少しずつ輪を広げることができてきました。

市民活動団体が活動を継続していくうえで運営資金をいかに確保するかが大きな課題となっており、資金確保の仕組みとして「寄付ぎふと」プロジェクトがあります。今回は、寄付先団体より「アテラーノ旭」前理事長の山中雅子さんに寄稿していただきました。

(つづき)

### ■コロナにも負けずに

昨年からのコロナ禍でイベントが中止になることが多かったのですが、地域の人達との繋がりを大切にしたいと、節分の日の「鬼の福分け」は今年も行いました。



▲節分の「鬼の福分け」※右端が山中雅子さん

最近注目されている「子ども食堂」に取り組みはじめて2年になりますが、コロナ禍で今はお弁当という形で1か月に1度、120個から150個を作って届け、喜ばれています。

この間いただいた「寄付ぎふと」は、主に子ども食堂の食材購入やボランティアさんへの謝礼に使わせていただき、ほんとうに助かっています。

### ■アテラーノ旭の最近

新たに取り組んできたのが「新型コロナウイルス対応緊急支援助成」の事業です。昨年12月から今年5月までの短期間の事業で、国民の残した休眠預金を利用し、「一般社団法人全国コミュニティ



▲子ども食堂で届ける弁当を用意しているところ

財団協会」が公募したものです。アテラーノ旭は「新型コロナウイルスに負けないまちづくり」としていくつかの取り組みを行いました。スクーリングやソーシャルワーカーや高知市の保健師と連携して必要としている子どもたちの家庭に、学校給食の無い日・冬休み・日曜・祭日・春休みに無償でお弁当を届ける事業や、コロナ禍で増加しているといわれているDV被害者や生きづらさの中で心を病んでしまった人々への食を通じた支援などです。この事業を通じて、地域には貧困・孤独・孤立をかかえながら声を出せずに悩んでいる人たちが居ることを知りました。こうした経験をいかし、今後も地域に寄り添い、「ひとりもとり残さない」地域づくりに取り組みたいと考えています。

【お問い合わせ先】NPO法人アテラーノ旭 住所：高知市元町44

TEL: 088-873-1082 (日曜・祝日を除く9時~17時)

<https://ateranoasahi.amebaownd.com>

「アテラーノ」とは高知の方言(土佐弁)で、「わたしたちの」という意味です。



# 三択クイズ！

Q.高知市の追手筋で毎週日曜日に開かれる「日曜市」。始まったのは何時代だったのでしょうか？

- ①明治時代 ②江戸時代 ③昭和時代



答えは高知市市民活動サポートセンターのホームページに掲載中。  
URL : <http://www.kochi-saposen.net/>

#編集スタッフの

## つぶやき



@杉本

本格的な日焼けの季節になってきましたね。今年はこの日焼け止めを使おうかな、どんな日傘があるのかな。日焼け対策は意外と楽しめます☀️



@しのみや

コロナ過であっというまに普及したオンライン会議。いつでもどこでもできる気軽さで重宝されているが、振り回されているような気がしてなんだかな～



@北川

毎年、夏には嶺北の川に遊びに行きます。小さな子供連れでも安全に遊べるきれいな川が沢山あります。意外に近いので、ぜひ行ってみてください。



@みやわき

ジリジリした日差しにムツとした熱風……去年はどうやって暑さを凌いでいたのか考える。思い出す前に涼しい風が吹いてきた。



@横田

イクリはスモモの方言とも、スモモの一種だとも聞かすが、よくわからない。わからなくても、この爽やかな酸味の初夏の味は大好きだ。

## 読者の声

- 春らしい柔らかな表紙と1ページ目にある里山ツアーを見てほっこりした気持ちになりました。
- コロナ禍で市民生活もままならない中で、NPOがどんな状態なのか調査する意義は大きいものと感じました。
- あまり市民活動を知らない方が読んでも(特にファンドレイジングの部分)分かりやすい内容で良かったです。

えぬびい Oh !バックナンバーは、高知市市民活動サポートセンターのホームページでご覧いただけます。

発行 高知市市民活動サポートセンター  
企画編集 認定特定非営利活動法人  
NPO高知市民会議 広報部会  
〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎2階  
月～金/10:00～21:00 土/10:00～18:00(日・祝日は休み)  
TEL : 088-820-1540 FAX : 088-820-1665  
E-Mail : [info@siminkaigi.org](mailto:info@siminkaigi.org)  
WEB : <http://www.kochi-saposen.net/>



この冊子は再生紙を使用しています